

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第4回川西市PTAあり方検討会	
事務局 (担当課)		社会教育課	
開催日時		令和2年2月1日(土) 14時から16時	
開催場所		川西市役所 2階 202会議室	
出席者	委員	野崎構成員、福本構成員、川原構成員、池内構成員、古谷構成員、秋葉構成員、大田構成員、山科構成員、大村構成員、熊手構成員、岡田構成員、高月構成員、小和田構成員	
	その他	坂本教育委員	
	事務局	若生教育推進部長、中西教育推進部副部長、喜多川こども未来部参事(幼児教育保育課担当)、大屋敷社会教育課長、井関社会教育課長補佐、田中社会教育課課員	
傍聴の可否予定		可	傍聴者数 25人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1.開会 2.報告 (1)川西市PTAあり方検討会の振り返りについて 3.議題 (1)PTAの活動内容について 【PTAの組織について】 4.その他 【PTAに係る状況調査結果について】 5.閉会	
会議結果		審議経過の通り	

審 議 経 過

	<p>【開会】</p>
座長	— 座長あいさつ —
	— 出席者確認 —
事務局	— 資料の確認 —
座長	— 会議の流れ説明 —
座長	報告(1) 川西市 PTA あり方検討会の振り返りについてということで、前回の検討会終了後における教育委員会の動きについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	(事務局から検討会の座長名で各小・中・特別支援学校長と各市立幼稚園園長、各 PTA 会長に資料 1 をお知らせした旨を説明。校長会議で、第 3 回検討会の内容等の説明を行った旨を説明。教頭会議で、勉強会を行った旨を説明。部長会議で、PTA の課題、あり方検討会の内容、諸団体の取り組み状況を説明し、PTA に係る事業・イベントの見直しをお願いをした旨を説明。)
座長	それでは続いて、各構成員が所属する団体でのこの間の動きについて、ご報告をしていただきたい。
構成員	<p>特別支援学校・小学校校長会では、第 3 回あり方検討会の後、校長会で交流を図った。第 3 回検討会の時になかなか校長会の中で交流ができていないという話をしたが、それを受けて、校長会で各学校において、PTA の改革がどのように進んでいるのかについて交流を行った。</p> <p>特に具体的に行ったのが入会届に関しての交流である。来年度、令和 2 年度に向けて入会届を導入する学校、すでに導入したという学校も含めて、10 校ある。それから、令和 3 年度の入会届導入に向けて、来年度は準備期間である学校が、5 校で、残りの 1 校は未定であるというような状況であった。</p> <p>また、PTA 活動の内容のスリム化、見直しなどについても交流した。各学校の状況により違いがあるが、改革に向けてのヒントになり、各学校に持ち帰り、単位 PTA との話し合いがスムーズになっていくように感じられた。</p> <p>今まで、管理職や PTA 会長、PTA の総務役員の中にも、どのように進めていけばよいのか困り感があったように思う。各学校で、全然温度差が違っていたが、その緩和にもなったのではと感じている。今後は、各学校の管理職と PTA の総務役員との改革に向けて話し合い、活動内容や入会届に関してもスムーズにいくのではというように感じている。</p>

<p>構成員</p>	<p>中学校では、入会届について、令和2年度から実施するのは、7校中1校になると思う。他の6校については、令和3年度に向けてPTA活動のスリム化・見直し等を図っていく年度になるのではないかと考えている。この話は少し前のことであるため、変化が起きているところがあるかもしれない。</p> <p>本校は令和2年度の4月から入会届を導入していこうと考えている。中学校は学校によってPTAの活動内容、特に地域との関わりという意味では、活動量に随分違いがあるようで、そのようなところの見直しをしていかなければならない。本校では、PTA会長も随分悩まれ、令和3年度からがよいのではないかと考えた。副座長が「結局先送りにしたところでどのようになるのか分からない中で進めていかなければならない」と話していることを聞き、令和2年度はどのようになるか分からないけどやってみて、その中で活動内容を考えていくほうがよいのではないかと考えた。</p> <p>中学校の場合は3年間しか保護者がいないため、現総務役員が、自分たちがいるうちに、今までの経緯も伝えながら、引き継ぎをしていったほうがよいのではないかと判断し、そのような形で進んでいるところである。</p>
<p>構成員</p>	<p>どの幼稚園も2月3月頃に一日入園をし、来年度の年少児役員選出をし、役員との取り組み内容を話し合っている。特に本園では来年度の年少児が5名であるため、「年長の保護者でカバーできるかもしれない」「年少はクラス委員のように工夫することはできないか」など、みんなで知恵を出し合いながら話をしているところである。安心して入園してもらえるように、役員から力をもらいながら、今、精査しているところである。</p> <p>昨日、阪神地区PTA連絡協議会理事会に出席した。川西市は、令和3年に県幼P・阪幼Pの担当市となっている。そのときには幼稚園数は5園になるため、担当市の役割が果たせるのかということに、任意加入のこともあり、不安を抱えていることを話した。</p> <p>他市も無償化の関係で園児数が激減しており、担当市の年度を終えてから加入をどのようにすべきか考えているというような声もある。川西市も近々の課題と思っている。川西市では以前、担当市だった時は、人数の半分が阪幼Pの担当、あと半分が川幼Pと分担していたが、今の状態では難しい。</p> <p>先日、川幼Pとしてこども園の施設見学をした。こども園にはPTAがなく、その中でどのように保護者の意見を集約し、ボランティアを募るなどして取り組んでおられるのか、色々な話を聞かせていただいた。保護者の協力的な意見も多く、園長や副園長が意見を集約し、保護者に取り組み案をお知らせする工夫もされているようである。そこでこども園よりご意見をいただいたのは、PTAは園と保護者をつなぐパイプ役で、今まで大変お世話になっていたということを感じましたよとお聞きすることができた。</p> <p>今年度の川幼Pは2月で最後だが、「単位PTAで抱えている様々な悩みをみんなで共有し、助け合えるから楽しい」、「次回で最後が寂しい」という声が出ている。ママ友の繋がりが、一生の繋がりになったりすることも非常に多いため、この出会いをよい繋がりとし大切にしていきたいと感じている。</p>

<p>構成員</p>	<p>先日伊丹で行われた PTA 研修会に出席してきたことから話をさせてもらう。阪神の PTA 連合の会長が集まっていた。どの市でも今、PTA の改革に取り組んでいる。PTA 連合会に単位 PTA から色々な質問や相談などが多く寄せられており、対応しきれない状況にあるという話をされていた。「持って行く場所も非常に少ない」「どのようにしたらよいのか分からない」と言っていた。しかし、川西市の現状は、PTA 連合会に意見が集約されているだけでなく、行政や市長も積極的に話に加わってもらっている。また学校、地域に各単位 PTA が相談をしているような状況が見受けられる。話が前に進んでいるような気がしているが、今、保護者に任意加入を知らせると、PTA を辞めてよいというような言葉に変換されてしまいがちである。したがって、PTA 連合会としては、「川西市の特徴として色々な人に相談ができる」「話し合う機会がある」そして、「自分たちが考える PTA に形を変えられる」というような説明を根気強くしていきたいと思っている。</p> <p>各単位 PTA では、色々な動きが始まっている。アンケートを実施し、活動の見直しをしている PTA、総会のやり方を変更している PTA、規約の簡略化を積極的に行っている PTA、立候補をこれまでよりも重視し、役員の決定に使っていく PTA、また役員についてエントリー制を積極的に取り入れていく PTA など様々な動きが各校で始まっている。</p> <p>臨時総会を行っている学校もある。その中の 1 校に行ったところ、大勢の人が集まっており、みんなで話し合う場が持たれていた。ただ、PTA だけでそれが成り立っているわけではなく、学校側の支えがあり、多くの人が集まって、落ち着いた話し合いができるということが見受けられる。</p> <p>地域の活動においても、PTA からの提案で新しい地域活動に踏み出された PTA や地域がある。その行事も見に行かせてもらった。今までの PTA は女性ばかりの集まりで、なかなか男性が集まってこなかったが、その企画は多くの男性が来られていた。そこに新しい形が見えたような気がしている。</p> <p>また、川西の PTA の特徴として、1 年で役員が終わってしまい、次に引き継ぎが難しいという現状があるが、そこについても、今まで役員をした人が「もう 1 回やります」というような動きが多く出てきているような感じである。</p>
<p>構成員</p>	<p>1 月 18 日に PTA 連合会主催で、年に 1 回の大イベントである PTCA フォーラムを開催した。そのフォーラムのことを報告させてもらう。</p> <p>今回のフォーラムでは、「PTA そこまで言っちゃって委員会」と題し、某番組のパロディー形式で PTA のことを本音でそこまで言っちゃおうという、少し攻めた座談会を企画した。司会進行に関西テレビの関アナウンサーを迎え、パネリストには越田市長をはじめ、コミュニティ会長、保護者と校長先生の計 10 名に参加いただいた。テーマは「クオリティーオブ PTA」と掲げ、PTA の質について徹底討論するものであった。</p> <p>あり方検討会のメンバーでは議論の内容が重なる部分もあるため、今回のフォーラムのパネリストにはあえてあり方検討会に参加していない人に出演をお願いした。</p>

したがって、あり方検討会とは違った角度からの意見や、雰囲気をつくる
ことができたのではないかと思っている。全部で4問の題を提示し、パネリ
ストにディスカッションしてもらった。

全体を通して、意見が結構分かれ、かなり白熱していたという印象を受け
た。最初の題は「あなたにとってPTAとは」ということで、一言で自己紹介
を兼ねて答えてもらった。学校の立場からは、「頼りになる存在」、「サポ
ーター」というような保護者の存在への感謝の意見が出た。地域からは「パ
ートナー」「共同体」というような一緒に活動しているという意見が、市長
からは「みんなが話し合う場所」ということで「人と人とが繋がるための基
本の部分」ということを話してもらった。保護者からは「闇」、「ダイエツ
トの失敗」という本音が見えるような意見まで、様々な立場からの様々な一
言でスタートした。

2問目は、「今のPTAに点数をつけるなら」ということで採点をしてもらっ
た。結果最高得点は160点から下は何と0点まで、様々な点数が出た。また、
「点数で評価すべきではない」という、話を根本から覆すような意見まで飛
び出て大変盛り上がった。

後半は「あなたがPTA会長であればどのような改革をするか」ということ
と「PTAのクオリティを高めるために必要なことは」という題でこれからの
未来に向けての討論をしてもらった。「強制はしない」、「任意団体であるこ
との明確化」、「保護者・学校・地域・行政というそれぞれ違う立場の団体が
それぞれできることを明確にする」、「受動的から能動的へといった意識改
革が必要で、自分の役割を理解して主体的に取り組むことの大切さ」などの
意見があった。他には、「役員の有償化」、「教職員の属さない組織」といっ
た斬新な意見が飛び出す一方で、「楽しく活動する」、「仲間を大切にする」、
「信頼関係を構築する」といったPTAは人間関係を培う場であるということ
を改めて感じる意見も出た。

PTA 連合会としては、今回例年のフォーラムとは違った形にしたため、不安
もあったが、想像している以上に反響があり、非常によかったという声をも
らっている。イベントとしては、無事やり遂げることができたが、これから
本番がまだまだ続くため、現場でもこのように本音で議論できる場を持ち続
けていければよいと思っている。

構成員

今PTCAフォーラムの報告があったが、最後の締めくくりが「非常によかつ
た」で終わっているが、出席していた者としては、非常にしんどい時間であ
った。あらためて、これだけ感覚の差があるのだなと実感している。

「PTAのクオリティを高める為に必要なことは？」との題を聞き、クオリ
ティとは何を指すのだろうと思った。色々なことをさせられているその事業
の内容のことを言っているのか、それともそこに関わっている人の考え方の
ことを言っているのか。そこに大きなずれがあると思っている。クオリティ
を問う時に今のPTAの状況は事業の内容を問える様な現状ではないだろうし
、保護者が任期中PTAの集まりに出て終わる頃には1年間勉強になりましたと
よく言われるが、PTA活動は自分達を高めるための活動、組織でもあると私
は思う。

例えば子どもが5年生であれば親としてもまだ10年目である。そこを認
識し、もっと謙虚になってほしい。事業の内容も見直す必要はあるが、それ

	<p>以前に、人としてどのような歩みをすればよいのかを謙虚に考え学び合えるようなPTAであることが私は重要ではないかなと思う。</p> <p>PTAのクオリティと聞いたときに正直私は違和感を感じたし、PTAにクオリティを問うことはそぐわないと思う。</p>
座長	<p>今の話はこの後の協議の中で詰めていければと思っている。</p> <p>団体での動きについては、以上とし、副座長が神戸市や全国的な動きをよくご存じなため、情報提供をお願いしたい。</p>
副座長	<p>「任意加入の問題」、「個人情報の問題」、「お金の問題」の3点セットと言われているPTAの問題がこれだけ騒がれており、至急是正しなければならないというのは全国的な流れである。これは法律の問題であるため、実施が令和2年、令和3年、令和4年かという議論はありえるかもしれないが、これを是正しないという話はないと思う。</p> <p>1番目の入会の話であるが、神戸市では、校長が集まり、入会届の議論をしているが、自由意思による入会届を提出してもらうというのは時間の問題である。</p> <p>神戸市の垂水区には11の中学校があるため、川西市とほぼ同じぐらいである。区で検討している入会意思確認は、自分の名前を書くかチェックを入れるかという積極的に入会意思を問うものと、一応こんなものであり、何かあったら言って下さいという消極的な入会意思確認の2パターンに分かれている。自信のない区は、2パターン目のほうである。自信のある区はチェックを入れ、名前を書いてもらおうとしている。</p> <p>入会率が100%にならないければ、次は何をしなければならぬかという、PTAの財源で実施している卒業記念品などを全部1回精算して見直すという、テクニカルなところを今、神戸では行っている。</p> <p>その議論と並行し、鶏が先か卵が先かの話になるが、魅力あるPTAにすれば、入会率が上がるため、魅力あるPTA、つまり父母が納得してくれるPTA、クオリティの高いPTAに変えるのが先なのか、先に入会届を取り、一旦落ちた加入率を引き上げていくのかとかいう、スケジュールの問題になっている。</p> <p>私が書いた本の題名が「PTAのトリセツ」ということで、皆さんに『トリセツ方式』と言ってもらっている。今、この内容をチャレンジしようという学校が非常に増えているが、これは校長にとって非常に厳しい話である。毎月裁判を受けるような感じである。それを、あえて受けながら学校運営をしていくことで、保護者が学校運営に参加したという意識を持つ。そこがクオリティの高いPTAだと思っている。</p> <p>子どものために、本当に形になることをやっていることがクオリティが高いと認識しているため、そのPTAに近づけていくことで、「それなら委員やろうか」とか、「そういうことを代表の方がしてくれるのなら入会だけはしておこうか」とか、そういう流れになるよう、今、一生懸命みんなが勉強しているため、私が実施している方式についての見学や研修が盛んに行われている。</p>

座長	<p>それでは議事を進めさせていただく。</p> <p>この検討会は本年度と来年度、2年間の開催ということになっており、今回は4回目になる。今年度最後の開催となるため、中間的なまとめを作る予定である。それでは、第1回から第3回までの内容をまとめたものについて、事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	(事務局から資料2に基づき第1回から第3回検討会の振り返りについて説明)
座長	<p>本来であれば、第4回の議論を踏まえ、第5回で報告するべきであるが、本日の議論と第3回までのまとめを合わせて、本年度のまとめを作成させていただきたいと考えている。中身については、私と副座長に一任いただき、事務局と調整し、まとめさせてもらってもよいかを構成員にお諮りしたい。</p> <p>(構成員から一任の声)</p>
座長	<p>それでは、私と副座長、事務局で、第4回も含め、本年度のまとめを作成させていただくこととしたい。</p> <p>議題の(1)に移る。</p> <p>PTAの活動内容について、意見をいただきたいと思う。</p> <p>まず、PTAの組織について、事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	(事務局から資料3に基づきPTAの組織について説明)
座長	<p>PTA組織の在り方は幼稚園や特別支援学校では若干違ってくる。各PTAを構成している組織は、副座長提案のエントリー制を柱の1つにしながら進めていこうかと思う。</p> <p>ある形のをすべてのPTAのフォーマットとして提示するのではなく、いろいろな形を示す中で「このような形もあるのか」「自分の学校や単位PTAであればこのような形がよい」というような話を出していければと思う。</p> <p>それでは、自由討議をお願いしたい。</p>
構成員	<p>小学校、中学校で総務役員の経験をしている。大体資料に書いているような組織で、学年部、専門部があり、エントリー制というか1家庭1活動というようなものをほぼ強制的にしているところが多いと思う。</p> <p>今、私の中学校でも色々見直しをしているが、メリット・デメリットで言うと、学年部は比較的「学校の様子が分かる」、「保護者に内容が分かりやすい」という感じがする。専門部は何をするのか分からないことが多い。エントリー制は1家庭1人をお願いしているので、納得はしてもらっていると思うが。</p> <p>中学校にはPTCはないが、小学校でのPTCのメリットは、「横の繋がりが持てる」、「子どもと触れ合える」などがあると思う。デメリットは、働いている保護者がPTCを欠席してしまうと、「自分の子どもが1人になり寂しい思いをする」ということをよく聞いた。学年ごとに保護者のカラーが違い、非</p>

<p>構成員</p>	<p>常に盛り上がっている学年と嫌々活動している学年に分かれてしまうことがあるため、するしないを各学年で決めることができればと思っていた。</p> <p>専門部のメリットは「他の団体との繋がりができる」ことかと思う。デメリットは「学校内の判断で勝手になくしたり、削減しにくい」ことだと思う。学校内で決められることが少ない気がする。また、学校内のことでないことが多いため、よく分からず不安という声も多い。</p> <p>今は1活動という形をお願いしているが、これも今後無理やりさせていくわけにはいかないため、エントリー制にすることで強制感がない、気軽さなどがメリットになるのではないかと思う。</p> <p>エントリー制のデメリットは「人気のない活動には人が集まらない」ため、保護者がやりたい活動とやりたくない活動の、差がはっきりと出るのではないかと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>少し基本的な質問となるが、例えば総務役員は各学年から何人というような決め方なのか。それとも専門部は専門部で、各学年部は各学年で何人というように決まっているのか。</p>
<p>構成員</p>	<p>専門部と学年部は4月に選出することが多いと思う。総務役員は秋に5名から7名を個別に選出し、学年部や専門部を春に選出するパターンが多いと思う。総務役員と学年部・専門部は別物である。</p>
<p>構成員</p>	<p>学校により違うかもしれないが、学年から2名選出され、その内の1名が専門部を兼任するという場合もあるし、学校によっては別個に専門部だけを選出する場合もあるかもしれない。</p>
<p>座長</p>	<p>学年部制と専門部制が微妙に連動している。例えば1学年の総務役員もいれば、1学年の中で広報担当や教養担当という形になっているということである。他に何かあれば発言をお願いしたい。</p>
<p>構成員</p>	<p>学年部と専門部についてであるが、学校によって、学年部をなくし、専門部だけでやるということや、逆に学年部だけを残し、専門部をなくすなど、学校の実態に合わせて色々と考えているところだと思う。</p> <p>エントリー制については、本校では年度始めにエントリーを出してもらい、それを総務役員で調整していこうと考えている。これは多くの学校で考えられているのではないかと思う。その中で人気の有る無しで差が出てくるのではないかと思う。そのようになった時の調整が一番難しいのではないかと思うが、副座長の学校ではどのようにカバーされているのか教えてほしい。</p>
<p>副座長</p>	<p>1人1役であるため、やってもらわなければいけない。ただ、絶対に人気の差が出るのは分かっているため、全員がやったといえるような簡単な活動をわざと作る。</p> <p>私たちの考え方は、各クラス4名の学級委員に徹底的に子どものことについて話し合ってもらおうというものである。広報誌は誰も見ないし、親子クッ</p>

<p>構成員</p>	<p>キングは参加者が 20 人ぐらいで、役員ばかりであったため、すぐ止めようとなり、事実上専門部制はない。</p> <p>学年部制があり、それ以外でどうしても学校が手伝ってもらわなければならないことだけをエントリー制にして残した。</p> <p>全員が 1 つか 2 つエントリーできるように、例えば登校の時「こんにちは」と言う 1 日 5 分の仕事も 1 つとし、わざと誰でもやってもらえるものを入れた。エントリーは 2 つであるため、年間に 2 つ名前を書いてもらえるように、負担感が多いと思う人のために、そのような仕事を増やした。それでもあまり人気のないものはやめた。人気がないということは、結局やっても意味がないからである。</p> <p>本校の場合、役員の立候補へのきっかけは、毎月ある校長との議論である。それに出られるため、PTA に参加してくれるわけである。自分の子どもが寒がっているため黒いタイツを履かせるといった話などを延々とするのである。それに魅力があり、それが目的である。エントリー制については、今までの流れを保つために、1 人 2 役をしようというだけのことである。</p> <p>本校もエントリー制でどのような中身のものを残していくのか洗い出しをしていかなければならないと思っている。必要であるが、保護者にとっては負担感があり、選びたくないというものがある。みんながなくなってしまうよいとなれば、なくしてもよいかもかもしれないが、そこは微妙であると思う。そのあたりの調整をどのようにしていけばよいか、例えば負担感のあるものと短時間でできるものに分けておき、選んでもらうといった組み合わせも必要かと思うがいかがか。</p>
<p>副座長</p>	<p>例えば、資料の中のエントリー制を見てもらうと、登下校の見守りというものがある。これは、10 分か 20 分で済むと思う。ところが、イベント出店は 1 日かかりそうな感じがする。運動会の手伝いでも自転車の整理をするだけというものや不審者対応で門に立ってもらおうというように仕事の内容にはどうしても重い軽いがある。教員だけで手が回らないため、PTA にしてもらおうと思うものを極力少なくし、半日で終わるものも 10 分で終わるものもあると思うが、負担の重いものについては説明をしていく必要があると思う。</p> <p>毎月の運営委員会の時に説明をすれば、1 日の参加行事でも積極的に行ってくれるようになった。</p> <p>委員になってくれる人にも忙しい人がいる。ただ、学校にはきちんと意見を言いたいという人もおり、そのような人のために 10 分や 20 分ということもありにする。内容の重い軽いは絶対にあり、そこで平等ということはないかもしれないため、その部分については説明していくことが必要だと思う。</p>
<p>構成員</p>	<p>登下校の見守りや子どもの安全、地域の安全力を高めるパトロールは PTA というくりではない気がする。登下校の見守りは PTA としてではなく、親としての役割があると思う。PTA の中に入れてしまうことを不自然に感じている。PTA の特徴で、仕事のやらされ感や負担感をよく聞くが、それは今まで PTA の加入者の声を聞かずに運営していた結果であって、保護者の真摯な声を聞</p>

<p>構成員</p>	<p>き、仕事を構成していかなければ、エントリー制をしても負担と言われると思う。</p> <p>アンケートを実施するなどしっかりと話し合いをもたなければならないと思う。</p> <p>今、保護者が抱えている問題として、不登校の問題もある。自分の子どもがいつ不登校になるか分からない。</p> <p>不登校になれば、今、学校は「学校に行かなくてよい」と言ってくれる。それはありがたい言葉かもしれないが、その時の親の負担が大きく、仕事も何もできない。保護者のニーズを捉える活動をしなかったら、負担感なんて消えないと思う。</p> <p>保護者が求めるニーズを吸い上げなければ、負担感は拭えないと言われたが、その通りだと思う。私の地域では、最初は何とかPTAに協力できることがないか模索していたが、PTAができないという話やPTAに加入しないという話が色々なところで起こってきている。親が一生懸命PTA活動しているため、地域も手伝おうという気になるが、親が関わらないのであれば、手伝いようがないという話が出てきている。</p> <p>とにかく、PTAで親のニーズを早急に把握してもらい、そこに地域が乗れるのであれば、乗せていただきたい。</p> <p>地域としても手伝いたい、PTCAフォーラムで「取り巻きは黙って見ていろ」「取り巻きは温かい目で」という話があり、地域は取り巻きだと思い、後はきちんと聞いていない。地域は良くも悪くもPTAに気を遣っている。また、地域との関係はどれもこれも負担であるとアンケートで挙がっている。もし、地域が手伝いをしなければ、PTAとの関係性が崩れていき、一番困るのは子どもになる。本当にPTAが求めていることを知りたいと思っている。手伝いができるのであれば手伝いをするが、まず、PTAが何を考えているのか、また、何を望んでいるのかを示してほしい。</p>
<p>座長</p>	<p>貴重な指摘である。</p> <p>少し視点を変えれば、学校は地域における貴重な社会資本、地域資源である。学校があることにより地域が成り立つ。学校が設立され、地域ができたというところもあるため、地域と学校は1つとして考えていくことは大事である。</p>
<p>座長</p>	<p style="text-align: center;">— 休憩 —</p> <p>エントリー制であるが、例えば年間に1人1つもしくは2つの活動に参加するように、割り当てられている場合はエントリー制とは違う。エントリー制は完全に手挙げ方式、プロジェクト方式のことである。例えば、地域行事があり、手伝いたい人は参加くださいということであり、手伝ったことを1回とカウントする、しないとは別の問題である。</p> <p>議論を続けたいと思う。</p> <p>どのような形の組織が望ましいのか、また、どのような形で組織を整理できるのかということなどについて、ご意見をいただきたい。</p>

<p>構成員</p>	<p>副座長の学校の運営委員会の話を私の学校の校長に話すと、「いいね」とは言うが、小学校の校長に聞くと無理みたいと言われて、先に進まない。各校長にとっては、運営委員会に保護者がたくさん集まり、文句を言われると困るのかなと思った。ただ、保護者としては言いたい。タイツがなぜベージュなのか、黒が駄目な理由をきちんと教えてほしい。</p> <p>本日、新生の説明会があり、入会届をとった。入会イコール委員選出・役員選出ではないと伝えたが、ほとんどの人が考えたいと持ち帰った。その時、運営委員会は非常によいと伝えることができれば、よい宣伝になると思った。特に中学校では、学校の決まり事に疑問を持っている保護者が多くいると思う。運営委員会で学校への意見が言えるとなれば、「少しぐらい手伝おう」という保護者がいるかもしれない。</p>
<p>構成員</p>	<p>決して、PTAが学校運営に関わることを拒絶しているわけではない。</p> <p>学校も変わらなければならないし、変わっていかうとしている学校がたくさん出てきていると思う。</p> <p>学校は秩序や規律を守っていくことで、子どもたちが落ち着いて学習ができる、学校生活を送れる環境を作ろうという気持ちが強いのは確かである。</p> <p>一時、学校が荒れた時代があった。授業もままならない時もあった。そのような時代から子どもたちの自治活動を大きく取り入れ、建て直しをしてきた。子どもたちが考えたルールはたくさんある。そのような子どもたちの意見や保護者の意見に耳を貸さず、学校が勝手に決めるということはない。ただ、「どのような意見が出てくるのか」という不安な気持ちはある。</p> <p>副座長が以前「50人も保護者が集まれば、色々と極端な意見が出てきたとしても、だいたいよいところで落ち着く」ということを言っていた。その話を聞き、確かにその通りだと思っている。</p> <p>学校は、1歩踏み出した時に何が起きるのかを考えることがあるが、副座長の話の方向へ舵を切っていく必要もあるのかなと個人的には思っている。</p>
<p>座長</p>	<p>学校側からも伝えたいことはある。特にスマートフォンの使い方や深夜の行動など、学校側と保護者が意見をすり合わせ、お互い言いたいことを言えるような場が必要である。</p>
<p>副座長</p>	<p>PTAからの要望ばかりではない。保護者に学校運営を決めてもらえばよい。そこに学校が入るためややこしいことになる。例えば、保護者が500人おれば500人の価値観が違う。学校が決めると、500人に対して500通りの説明をしなければならない。学校は今までそのようなやり方をしており、忙しくしていた。ある程度のことば、保護者同士で話をしてもらい、それを学校が受ければ、これほど合理的なことはない。</p> <p>学校の先生は過労死レベルで大変である。文部科学省が先生の数を倍にしない限り先生の多忙化は解消しないと言っているが、できない。</p> <p>学校が先生の多忙化問題に取り組むに当たっては、保護者の力を借りなければできないと私は思っている。</p> <p>学校の立場で言うと、やり方を変えなければ学校がもたないのである。</p>

構成員

先生は 5 時半に帰ってもらわないといけないのである。神戸市では、タイムカードで出勤を取る。残業が月 100 時間越え、先生が過労死すれば校長の責任になる。

子どもたちへのサービスは変わらないため、私は運営委員会で通知簿の所見をやめた。運営委員会で保護者へ「所見は褒めるだけで、腹が立っていても、正直に書かないため、必要か」と尋ねたら、「いらない」ということであつたためやめた。

私の学校はこの 1 年間通知簿の所見を書かなかつた。そうすると、近隣の学校から「ずるい」という声があり、来年、神戸市の中学校は全て所見を書かないこととなった。

学校に文句を言うのではなく、困つたことに対し、保護者と先生が意見を出すことが大事である。学校からすると、「先生の授業が下手」とか「いじめがある」ということを言われるのが嫌なのだと思う。でも、この内容に蓋をしても事実として回っていくわけである。説明責任を果たさなければならぬこの時代では、学校と保護者が一緒に考えるしかないと思う。

保護者から「授業が下手」と言われれば、学校は「そのとおりで、授業のアンケートを取っており、数字で全て結果が出ているため、分かっている」と説明する。「どのような手だてをとるのか」を一緒に考えてもらう。授業が下手な先生のことを学校だけが悩むのではなく、保護者にも悩んでもらうのである。

私は長い間 1 ヶ月に 1 回 50 人の保護者と話をしているため大変である。

地域が困っていれば、そこで説明をし、「行ってあげよう」となる。

運営委員会がしんどいと思っているのであれば、発想を変えたらどうかと思う。

数ヶ月前にある学校に行った時、PTA が無くなると、登下校が組織できないという話があつた。校長と話をし「学校で登下校の運営が可能なのか」と聞くと「一杯一杯で先生がそれをすると家に帰れなくなる」と言われた。

はっきり言ってもらい、よかつたと思っている。その時、先生が迷っておれば、保護者も迷っていたと思う。

ただ、保護者に時間の余裕はない。子どもを送り出し、仕事に行き、帰宅して、買い物をして、掃除をして、洗濯をして、子どもを寝かしつけてと全然時間がないのである。そのような中でも、登下校は外せないのである。

学校と保護者が一緒になって本音で話し合っていかなければ、子どもの安全も守れない時代になっており、地域への協力もできない状態になってきている。保護者は、誰がやるのか分からないような状態が嫌なだけであり、したくないと言っているわけではないのである。

私たちは保護者の時間がない中で何ができるのかを追求する場が必要ということに気が付いた。川西市ではこのような機会が与えられているため、みんなでお互いに現実を突き合わせ、話し合いをしていくことが一番よいと思っている。それが今の PTA の在り方だと思う。保護者の声をまとめ、伝えていくことが、単位 PTA や PTA 連合会の役割だと思っている。

<p>構成員</p>	<p>幼稚園は資料にある PTA 組織の表に当てはまる仕事がほとんどないため言いにくいですが、幼稚園でエントリー制に当たるのは、子どもたちへの本の読み聞かせかなと思う。役員とは関係なく、年間を通して保護者に読み聞かせを頼むことがある。「表を置いておくので、どこかで読み聞かせをしてあげてほしい」とお願いするが、たまに表が埋まらないときもある。その時は絶対に誰かにやってもらうのではなく、園長が、地域などに「保護者が読み聞かせに来られる日がないため、手伝ってくれないか」と聞くと「構わない」となる。このような感じが、幼稚園と地域の繋がりだと思っている。</p> <p>小学校や中学校になると、規模も大きく、私もよく分からないことが多いため、何とも言えないが、地域と保護者、PTA が関わることになった時に、「私たちはこのような仕事がしたいが、人手が足りないため、地域の人を手伝ってくれないか」と聞き、地域が「いいよ」となったら、よいのではないかと思う。</p> <p>1つずつどのように精査をしていくかは難しいが、例えば小学校の運動会で自転車の片付けの担当を「親たちで人員が不足するため、地域の人で手伝ってくれる人はいるか」と聞き、「構わない」となる。そのような形で関わりを持っていければという単純な思いである。</p>
<p>構成員</p>	<p>私の中学校も現段階では学年部があり、別に専門部があり、エントリー制で仕事はない。ほとんどの活動を学年部と専門部でまかなってもらっている状態である。</p> <p>メリットとしては委員が決まっているため、子どもたちに対しての活動も学校に対しての活動も確実に仕事をしてもらえることだと思う。デメリットは仕事が決められているため、しなければならぬという少し強制的なところがあり、負担感として出てくるのだと思う。</p> <p>エントリー制に変えていかないといけない部分もあるとは思っている。エントリー制のよい面はやりたい活動ができることで、強制力がなく気軽な感じでできるところだと思う。デメリットは手伝って欲しいと思っている活動に誰も手伝ってくれない時にどうするのかということである。誰も手伝ってくれなければ、どうするのかを学校側と保護者側で十分に話をしていないといけないと思う。</p>
<p>構成員</p>	<p>保護者、学級数も減っているため、規模が小さくなっており、今まで通りにはいっていない。</p> <p>本校においても、来年度に向けて、広報がなくなるということや、ベルマークもなくそうということなど、色々な活動について精査をしている。本校だけでなく、他校もそれぞれの規模に合わせて縮小していこうとしている。今までの PTA は、1 年単位で役員が変わり、保護者が自分の代で仕事をなくすのは嫌だという思いで前例踏襲が続き、先生も PTA に任せきりになっていたというところがあった。しかし、今回のあり方検討会を機会に本気で考えだしている。来年も役員をやり、2 年間で改革すると言っている学校もある。</p> <p>それぞれの学校で PTA 組織の縮小を考えている。仕事の大事な部分をなくすのではなく、入会率など人数的な部分があるため、そこも含めて考えている。</p>

	<p>小学校での1人1活動もなくし、縮小していく。例えばエプロン補修は、エプロンを購入して自己責任でやるという学校も出てきている。それがよいか悪いかは別として、各学校に合わせた組織づくりをしていく。</p> <p>校長会では今話した内容などについて交流したうえで、各学校に持ち帰り、PTAと話をしている。それを踏まえ、令和3年度に向けて取り組んでいる学校が多いと思う。</p>
<p>構成員</p>	<p>特別支援学校は5年ぐらい前から精査しながら活動を減らしている。基本的に専門部制のみを採用しており、学年部制がない。</p> <p>養護学校のPTAは、子どもの安全安心を守ることと、日々子どもが毎日楽しく健康に学校に行くことが考え方としてある。そのために活動するという事は、PTA会員に周知している。</p> <p>例えば、副座長が言われたような教師の指導力がないという部分は先生と一緒にやっている。養護学校は、小学校と異なり、子どもの体に触ったりする。小学校から異動してきた先生は経験がないため、全くできないということもある。体の訓練をする時間に保護者が行き、「先生ここはこうする」とか「こうして立たせる」というように、先生も一緒に育てていくような感じである。進路学習も小中学校と違うため、自分たちで卒業後どのようなところに行けるかを、自分の子どもだけではなく、色々な子どものことを考えて、施設見学に行ったりするなど、保護者も勉強する。養護学校のPTAとしてはそのような形で活動していくのがよいと思っている。</p>
<p>座長</p>	<p>私も特別支援学校のPTA 連合会と関わった経験があるが、子どもたちの卒業後をどうするかという切実な課題を抱えておられたこともあり、他のPTAと違う形で保護者の方が成長されていく姿に感銘を受けた。</p>
<p>構成員</p>	<p>私は、本日、高校の評議員会に出ていた。そこでもこのPTAの問題が上がっていた。</p> <p>中学校長会、小学校長会また幼稚園の園長会でも、本音で各学校代表者が意見を出し合っているのかなと思う。もう4回目なのに意見としては寂しいと感じている。もっと突っ込んだ意見を出し合い、PTA 連合会や単位PTAとしっかりと話をし、よい改善策を求めていてもらいたいと思う。</p> <p>地域から、PTAに対し、要望は出していない。学校側からは「これをするため、地域の手伝いをお願いしたい。PTAだけでは少し難しい。」という声があるため、みんな気持ちよく協力してくれている。</p> <p>私はPTA、学校側、地域がお互いに話し合えば解決する問題だと思っている。そのことに対し、教育委員会がしっかりと手綱を捌くようにしてもらえればよいのではないかと思う。</p> <p>何を難しく考えているのかと思う。子どもたちのためにすると考えれば、よい方法で解決できるのではないかと思うため、それぞれ言い分もあるかと思うが、理解してほしい、協力してほしいというのが私の一市民としての声である。</p>

座長	<p>思いをどのように形にしていくかというところと、思いをいかに結集していくか。そして家族構成や地域の状況が変わっていく中で、子どもたちにどのようにうまく還元できるかというところについて、知恵を出していければと考えている。</p> <p>最後に、発言がある人はお願いしたい。</p>
構成員	<p>保護者が魅力ややりがいを持てる運営委員会がスタートすれば付随して、色々なものがうまくいくのではないかと思う。校長会で運営委員会のことを話し合ってもらえないか。</p> <p>本当に協力しないと思っている保護者はいないと思う。地域にお願いに行くのは、自分たちで勝手に判断してよいか分からないものだけである。</p> <p>私の中学の愛護部は夕方のパトロールやオアシスの見回りに行くぐらいであるため、愛護部をなくしたいと思った。しかし、その愛護部に地域との関わりの部分があったため、愛護部をなくしてよいのか決められないままになっている。</p> <p>校内のことは校長先生と相談してやっていけるが、それを保護者に伝える手段は手紙だけになる。運営委員会で50人でも保護者が来ると、強力な宣伝力になると思う。そこで、地域がこれだけ困っているということを50人の保護者が知ると、そこからどんどん広がっていくと思う。検討いただければと思う。</p>
座長	<p>ここはPTA全体のことを協議する場であるため、個別の案件については別の場をお願いしたい。</p> <p>ただ、PTAの在り方ということで、学校運営参画について校長先生のリーダーシップのもと、そこにいかに保護者の意見が反映されるかというところの仕組みは検討課題であると思う。保護者が学校とフラットな関係で学校経営に参画するということも視野に入れていければと考えている。</p> <p>時間が迫っているため、一旦ここで議論を修了し、事務局で作成した資料の説明に移らせていただく。</p> <p>前回の検討会で市が関連する事業へのPTAからの参加について、庁内に調査をしているところで、今後、各所管へPTAの負担軽減への協力依頼を行っていく予定であり、次回の検討会でその状況をお知らせすると説明が事務局からあった。その状況について事務局から説明をお願いする。また、来年度の検討会の動きについても説明をお願いする。</p>
事務局	<p>(事務局から資料4に基づきPTAに係る状況調査結果について説明。結果を今後、各学校園長及び各単位PTA会長へお知らせしていく予定としていること、各所管へはこれからも、随時、進捗状況の確認をしていくことを説明。この内容についての市の所管部署への相談等は、基本的にPTA連合会が窓口となっただけようをお願いしていることを説明。</p> <p>来年度の検討会は、第5回を5～6月頃に、第6回を8～9月頃に、第7回を11月～12月頃に、第8回を2月頃に開催する予定で、最終的にはモデル案を作成したいと考えていることを説明。開催日程は、新年度に入り構成員と調整したいと考えていることを説明。)</p>

座長	<p>状況調査結果であるが、詳細な資料を作成していただいた。</p> <p>PTA の組織を行政サイドから見ると、保護者代表というよりも子ども代表と、子どもたちの意見を市政に反映させたいという思いがあり、これだけ多い件数になっていったと思う。ただ、見直しもしていただけるということは、ありがたいことだと思っている。</p> <p>予定されていた議案は以上であるが、ほかに構成員から何かご意見等はあるか。また事務局もよろしいか。</p> <p>特にないため、以上で第 4 回川西市 PTA あり方検討会を終了させていただきます。</p> <p>次年度についても引き続き会議へのご参加と活発な意見交換ができるようご協力をよろしくお願いしたい。</p>
----	---